

Ⅷ 社会教育の推進

平成28年熊本地震で、管内の多くの学校が避難所となりました。そこには、学校・地域・行政が連携して避難所運営に当たられている姿がありました。また、学校再開時の児童・生徒の安心・安全の確保のため、教職員だけでなく、PTAや地域の方々が労を惜しまず取り組まれている姿がありました。

平成27年12月21日の中央教育審議会答申では、目指すべき学校と地域の関係性を「支援」から「連携・協働」、「個別の活動」から「総合化・ネットワーク化」と示しています。この震災により、管内では図らずもその目指すべき姿を垣間見ることとなりました。児童・生徒がこれからの社会を生き抜く力身に付けていくためには、学校・家庭・地域が連携・協働していくことが必要であり、この地震の教訓を生かしていくことも大切です。

1 家庭教育支援

【くまもと家庭教育支援条例】

家庭教育支援を目的として、平成25年4月1日施行された全国初の条例です。条例では、保護者、学校、地域、事業者それぞれの役割が規定されています。

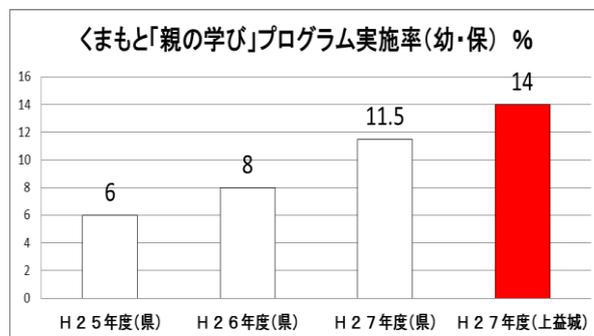
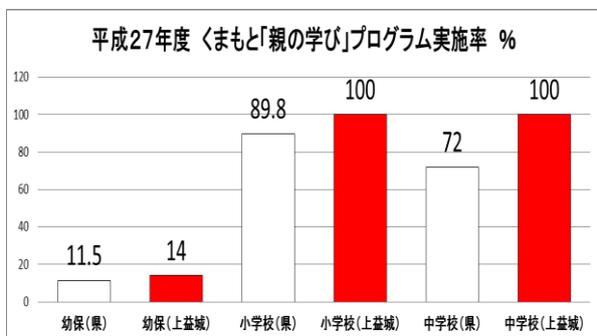
今年度、県作成のちらし等を活用した保護者啓発をお願いしたところ、全小・中学校で実施していただきました。今後も学校での啓発及びご活用をお願いします。

育てよう!! 地域の子ども
くまもと家庭教育支援条例
 家庭は教育の原点です。熊本県では、全国で初めて「くまもと家庭教育支援条例」を制定し、県民みんなで家庭での教育の支援に取り組んでいます。
 保護者の役割 (第6条) 親子の会話・遊びなど
 学校の役割 (第7条) 「親の学び」講座など
 地域の役割 (第8条) お祭り・子ども会など
 事業者の役割 (第9条) ワークライフのバランス
 お問い合わせ先 熊本県教育庁社会教育課 TEL:096-333-2698
 詳しくはネットで検索!! 「親の学び」家庭教育支援条例

【くまもと「親の学び」プログラムの活用】

家庭の教育力向上に資するため、くまもと家庭教育支援条例の認知率の向上と併せ、くまもと「親の学び」プログラムのあらゆる機会を活用した実施をお願いしています。

くまもと「親の学び」プログラムを活用した「親の学び」講座について、上益城管内の小・中学校では、ここ数年全小・中学校で100%実施をしていただいています。



また、熊本県全体の就学前での実施率を見てみると年々高くなっていることが分かります。これらのことから、本プログラムの更なる普及を図り、家庭の教育力向上に資するために、各小・中学校においては、「親の学び」講座の計画的な複数回実施をお願いします。

(1) 平成28年度の上益城管内各小・中学校の講座実施状況

「参加体験型の学習スタイルで参加者が楽しく学ぶことができる。」「子育てのポイントを身近な話題から学ぶことができる。」等の本プログラムの長を生かし、各小・中学校では、PTA研修、学級懇談会や地区懇談会など、いろいろな機会に講座を実施されています。本年度は「親の学び」講座を複数回実施された管内の小・中学校が半数以上に上りました。計画的・継続的な講座の実施により、家庭の教育力向上がさらに図られるものと思われま



(2) 「親の学び」プログラム進行役養成講座の実施

本年度は、平成28年熊本地震の影響で山都町1会場での進行役養成講座実施となりました。小・中学校のPTA、教職員の他、行政や就学前関係者等46名の参加がありました。受講された方の中には、勤務校で講座を実施されている先生もいらっしゃいます。



【進行役養成講座の様子】

管内の小・中学校の教職員の内、本プログラムの経験者は412名に上っており、管内の約2/3の教職員が本プログラムを経験されていることとなります。進行役養成講座を受講されたPTA等と連携して、各学校や地域で本プログラムの更なる実施をお願いします。

(3) 就学前や高等学校での普及・啓発

昨年度の益城幼稚園に引き続き、今年度は甲佐保育園が県指定モデル園となり、くまもと「親の学び」プログラム複数回実施等に継続的に取り組まれました。

また、高等学校における家庭教育支援の更なる充実に向け、矢部高等学校が研究指定校に委嘱されています。くまもと「親の学び」プログラムの効果的な支援方法の研究・実践の成果を関係機関に提供し、普及に努められています。



【モデル園の様子】

(4) 上益城家庭教育・くまもと「親の学び」プログラム実践交流会

本年度は、平成28年熊本地震の影響で、地域教育実践交流会と合同での開催となりました。小・中学校関係者だけでなく、就学前、高等学校及び行政関係者等にも広く呼びかけ70名の参加がありました。益城町の家庭教育支援の実践発表、家庭教育のテーマに沿った意見交換が行われ意見の深まりが見られました。

2 地域学校協働活動の拡充

地域学校協働活動とは、地域と学校が連携・協働して、地域の高齢者、成人、学生、保護者、PTA、NPO、民間企業、団体・機関等、幅広い地域住民等の参画により、地域全体で未来を担う子供たちの成長を支え、地域を創生する活動であり、上益城管内の各学校や地域では、これまでも多くの方々が参画し取組を進めてきています。

【地域の教育力を学校に活用する仕組み】

(1) 学校支援活動

授業等における学習補助や教員の業務補助等の学習支援、学校行事や様々な体験活動への支援等多くのボランティアが学校支援に関わっていらっしゃいます。文部科学省と熊本県では、学校・家庭・地域が一体となって地域ぐるみで子どもを育てるための体制づくりとして、平成20年度から学校支援地域本部事業（補助事業）を実施してきました。本年度から「学校を核とした地域の教育力強化事業（学校支援活動）」と名称が変更されていますが、各地でその取組は継続されています。本年度は、熊本地震の影響を受け、ボランティアの確保が心配されました。しかし、地域コーディネーター等の積極的な働きにより、下記のとおり例年とほぼ同じ数のボランティアの方が支援活動を行われています。

	学習支援ボランティア回数	学習支援ボランティア人数	体験活動ボランティア回数	体験活動ボランティア人数
平成27年度	539回	3156人	231回	1227人
平成28年度	578回	2893人	207回	1213人

益城中央小学校では、毎年多くのボランティアが学校支援を行われています。しかし、熊本地震により、ボランティアの方も多数被災されました。その結果、学校再開後に連絡がつかなくなったり、被災により参加できなくなったりした方もいらっしゃいました。そこで、急遽体育館に避難されていた方に地域コーディネーターがボランティアへの参加のお願いをされたところ、10名程度の方が快く引き受けられました。避難所として使わせてもらっている益城中央小学校への、感謝の意味も込めた参加だったそうです。避難所が閉鎖された現在も、学校支援ボランティアとして参加されています。学校と地域の新たなつながりが生まれています。



避難所ボランティアによる支援

七滝中央小学校では、地域の伝統芸能である寅舞の成り立ち等についての学習を、地域保存会の協力のもと実施されています。その結果を八千代座であった子ども芸術祭で発表するなど、学校への支援でありながら、地域の伝統芸能を継承していくことにもつながっています。



子ども芸術祭：七滝中央小寅舞

(2) 地域未来塾

地域住民の協力を得て学習機会の提供を行う地域未来塾の取組が、本年度は、御船、益城、甲佐の3町で実施されています。授業期間中の土曜日や水曜日の放課後、長期休業中等に、中学生を対象に実施されています。御船町では、本年度タブレット等のICT機器を活用した取組を開始されました。



御船中未来塾：タブレット活用

【学校と地域をつなぐ役割】

(1) 地域コーディネーター

教職員以外で、学校と地域をつなぐ役割を地域コーディネーターが担っています。管内には、町教育委員会から委嘱された7名の地域コーディネーターの他、学校独自で地域の方に依頼されている場合もあります。地域コーディネーターは、地域の状況や人材に詳しく、各活動に際し適切な人材に連絡を取られたり、人材活用への助言等を行われています。各学校や地域に設置されることで、地域学校協働活動の推進が期待できます。また、より効果的な活用にあたって、連絡票や打合せの時間の確保等の工夫が必要とされています。

(2) 地域連携担当職員

地域コーディネーターがいない学校では、教職員が地域連携担当又は生涯学習担当として校務分掌に位置付けられ、地域との連絡役を担っています。学校の職員ですので、教育課程や学校のニーズを把握したうえで、児童生徒の実態に合ったコーディネートが期待できます。管内のほとんどの小・中学校で校務分掌に位置付けられていますが、地域団体等と連携をとるための時間の確保が十分とれない現状があります。中教審答申でも「地域連携担当教職員（仮称）」と取り上げられていて、今後はさらにその役割が大きくなっていくものと思われま

【地域学校協働本部】

地域学校協働活動を進めていくための仕組みとして、地域学校協働本部の早期設置が望まれています。地域学校協働本部は、これまで個々に行われてきた支援活動・組織を緩やかにネットワーク化し、支援から連携・協働へと進めるための仕組みと言えます。この仕組みが設けられることにより、①コーディネート機能、②多様な活動の提供、③継続的な活動、が期待されます。管内では、類似した組織が形成されているところもあり、地域の実情に応じた仕組み作りを進めていくことが大切です。

地域学校協働本部の在り方

